

2017年度協定留学プログラム  
派遣学生留学状況報告書

非公開希望	項目	内容
	所 属	法学部 法学科 3年（留学年次） 4年（帰国年次）
原則 公開	留学先	※大学名、学部、学科名を記入してください。 ボローニャ大学法学部法学科
原則 公開	留学期間	※実際の留学期間（留学先での授業期間）を記入してください。 2017 年 9 月 18 日 ～ 2018 年 5 月 18 日 出国日 2017 年 8 月 21 日 最終帰国日 2018 年 7 月 29 日

留学の状況について、各項目について書いてください（合計 1,500 字以上）。これから海外留学をする学生にとって貴重な情報となりますので、なるべく詳細な記述をお願いします。

### 1. 留学全般について

#### (1) 留学当初の所感（第1・2回目報告書記載）について、自己評価や、留学前からの意識の変化等

留学前掲げていた目標のレベル、イタリア語 CILS B2 を自信を持って受けられなかった。すなわち、達成できなかったという点で少し自分に甘かったなど思うことはもちろん多々あるが、第一、第二報告書に記載したように、留学の後半に、自分の学科や成績を取ることにこだわらず興味のある学習院大学には存在しない授業や大学院の授業に参加することで前半よりさらに興味を持って授業に参加し、授業以外の時間にそれに関わる本を読むなどすることで知識、語学を伸ばすことがよりできたと思う。また、留学したばかりの頃、語学力に自信がなかったことや意見を言えない性格からよく、多くの友人との間の会話や授業で黙ってしまって何も言えなかったりすることが多くあったが、それでは何も解決しないということをしみにしみて感じ、常にどんな場面でも“積極的に”行動することを心がけるようになった。こうして何事にもより“積極的に”動くことを意識することで解決できた問題も多くあり、一年を通してこの点留学前と大きく日頃の意識が変わったと思う。

#### (2) 留学前にもっと準備をしておけばよかったと感じること

これは出発前にももちろん多くの方は準備しているはずだが、私は当初、現地において、自分の語学力不足に悩むことが多くあった。特に、到着時に行う多くの事務手続きが少々困難で多くのイタリア人に助けてもらった。また、ボローニャ大学は英語での授業提供を行っており、英語留学も可能ではあるが、日常生活で英語だけで過ごすことは不可能であるため、英語留学でもある程度イタリア語の基礎的な文法や単語は知っておくべきだと思う。

## 2. 留学先大学について

### (1) 留学先大学の授業や教授等についての印象や感想

私は当初、法学科の大講義の授業に参加していたが、ここでは主に聞いて自ら勉強する形になるため、私は少人数制の授業で質問ができる状態であり、かつ教授との距離が近い授業に参加するように心がけた。そのため、印象としては教授によりけりだが比較的日本の大学より教授と生徒の間に距離感はなく、質問や相談がしやすい環境であったと思う。

### (2) 留学先大学のキャンパスや施設についての印象や感想

ボローニャ大学は学科によってキャンパスの位置が異なり、街中のあちらこちらにあるため、移動の時間を含めて間に合う形で時間割を作る必要があり、それが意外と大変だった。私は“交換留学生はどの学科の授業に参加しても良い”という環境を利用し、全く自分とは関係のない法律関係ではない授業に参加したりしていたが、校舎同士が離れているため、移動でお昼ご飯が食べられないといったこともあった。その点、学習院大学と大きく異なるけれども施設としてはどの校舎もとても趣があり、快適だった。

### (3) 留学先大学の留学生に対するサポート体制について

**語学面：**留学生を対象とした語学補習講座のようなものが授業として或いは授業外で開講されているかどうか、また開講されている場合は、その時間数や内容、費用等について書いてください。

語学面：第一報告書にも記述したが、語学学校（CLA）は大学開始前の2週間、毎日4時間のインテンシブコース、またその後の週2回、1日2時間のエクステンシブコースを設けている。私は両コース取ったため、エクステンシブコース分、料金を支払ったが、片方のコースのみの場合無償で提供されている。語学学校はA2.1 からB2.2まで細かくクラス分けされており、自分にあったレベルの他の留学生たちと学ぶことができる。私はそのうちのB1.1で学んだが実際、1クラス20人弱と人数が多く、語学に特化した学校の様には見えてもらえないため、インテンシブコース、エクステンシブコースどちらも取る必要性は無いかなと思った。

（インテンシブコースからエクステンシブコースを続けるのに250ユーロかかった。また教科書もたくさん買うことになるためさらにお金がかかるが、授業中あまり使わないのが実情。）語学学校では主に、ペアワークやグループ発表が中心で時に街にインタビューに出かけたりもした。エクステンシブコースの値段は約250ユーロほどであった。

**バディ制度：**学習院大のようなシステムは全くないため、STUDENT DESKにわからなかったり困ったときは問い合わせるしかない。

**生活面：**生活面のサポートや留学生向けのイベントについて書いてください。

学科ごとにwelcome partyのようなものも行われている時もあるが、留学生向けのwelcome partyのようなものは特にない。ただ、留学生向けの説明会は9月に行われている。また、ヨーロッパからの学生“Erasmus”向けに行われているサービス“Erasmus Land”は入会料が必要だが、一度入れば旅行の企画やイベント、語学学校などのサービスを受けることができる。（別途料

金はかかる)。また、大学が提供している語学学校 (CLA) では、language exchange をするために登録することができ、運が良ければお互いの言語を交換しあえる相手を見つけることができる。基本、大学側から手厚いサポートはない。

**資金面**：現地で得られる奨学金等の情報があれば書いてください。

**(4) 留学先大学周辺の治安について書いてください。**

広場がある旧市街地付近、俗にいう中心部は夜でも人で賑わっていて特に治安が悪いといったことはないが、中心から離れた場所の細い路地などを夜遅くに 1 人で歩くといったことはしない方がよい。私は寮に住んでいたため、夜遅くに帰るときは必ず誰かとともに複数人で歩いていた。またイタリア全土として言えることは、夜中にあまり駅付近には近づかないほうがよい。

**(5) その他留学先大学についての印象や感想があれば書いてください。**

**(6) 留学先での履修科目等**

※本学での単位認定に関係なく、①に派遣先で履修した科目名をすべて記入してください。単位が認定された場合は、その科目の②に本学での科目名を記入してください。行は適宜追加してください。

※成績証明書を添付してください。

①留学先での履修科目名 (単位数)	②本学で単位認定された科目名 (単位数)
イタリア語 (語学学校)	

\*その他授業に参加していたが、テストを受けていないため、履修科目に入れない。

**3. 宿舎について**

**(1) 種類**

大学の寮 / アパート / ホームステイ / その他 ( )

**(2) 家賃**

月額 (現地通貨) 約 680€ 、(日本円) 約 9 万円

**(3) 食事**

食事付き (朝・昼・夕) / 自炊 / その他 ( )

(4) 大学までの交通手段、所要時間

徒歩 / 自転車 / バス / 地下鉄 / その他 (                      )、計 10 分～40 分 (校舎による)

(5) 感想、良かった点・悪かった点

寮、“Alma Camplus Mater”は立地がとてもよく何処へでも基本徒歩で行けるところがとても便利でよかった。しかし一方で、第一第二報告書で記した通り、寮内ルールがなく騒音やあり被害に1年間悩まされ続けた。

#### 4. 費用について

(1) 学 費

(現地通貨) 約                      、(日本円) 約                      円

(2) 渡航方法と金額

飛行機 / 船舶 / その他 (                      )、(日本円) 約 20 万 円 (往復航空券)

(3) 生活費

(現地通貨) ・年額 約                      、(日本円) 約 15 万 円

※ 宿舎費を含めた金額を記入してください。

(4) 費用の持参方法

/  / 国際ブランドプリペイドカード /  / その他 (                      )

⇒ その方法についての感想、良かった点・悪かった点

ATM から引き出す時の手数料がかからないキャッシュカードも存在するため、こういった種類のカードを持っていくことをおすすめしたい。

(5) 「学習院大学海外留学奨学金」を受給した場合、その主な支出内容と金額の内訳

#### 5. 保険について

(1) 保険会社名

東京海上日動火災保険

(2) 保険料

約 21 万円

(3) 加入した保険の種類、内容

海外旅行保険

(4) 感想、良かった点・悪かった点

## 6. 荷物について

### (1) 荷物の送付方法

手荷物 船便 SAL 便 航空便 海外宅配便 その他 ( )

### (2) 持って行って良かったと思う物

### (3) 持って行く必要が無かったと思う物

### (4) 持って行けば良かったと思う物

## 7. 平日および週末の平均的な過ごし方

### (1) 平日

平日、授業がない時間は寮の部屋で課題をこなしたり、イタリア語の本を読んだり、勉強したりで過ごしていた。

### (2) 週末

前期は生活することに手一杯で、あまり遠出せず、遠出するとしてもせいぜい知り合いや友人がいる近場の街へ遊びに行くくらいだったが、後期は生活に慣れ、語学にも自信が付いたことで一人でふらっと近場の街へ行ったり、行きたかった場所を訪ねてみたりしていた。特に行ってみたかった博物館、美術館を多く訪ねていた。また、友人とのんびりお茶をしたり、夜に Aperitivo という日本でいう食べ放題のようなお店に行き、遅くまで食べて話して交流を深めたりしていた。

## 8. 後輩へのアドバイス等

イタリアは想像以上に無秩序な点が多く、よくいえば自由であるが、時にそれが事務的な作業や大切な事柄にまで影響してくる。私も何度も“何でこうなるの？”とイライラしたり、“きっと日本だったらこうならないのに…” そう思ったことも多々あったが、せっかく留学にきたのだからと何事にもチャレンジ精神で果敢に積極的に打開策を見つけていくといいと思う。きっと気がつけばイタリアの文化や東京と違うのんびりした時間の流れ、空気に染まりどんな問題にもうまく対処できるようになる。住めば都。今後学習院からボローニャ大学に行く後輩の皆様も私のように留学生活を楽しんでほしいなと思う。

## 9. その他、雑感や要望など書きたいことがある場合は自由に書いてください。